

目指す学校像	南高生の誇り10箇条を座右の銘とし、人格の完成を目指し、豊かな情操を養い、探求心旺盛な自主自立の精神に満ちた心身共に健康な民主的社會人の育成を期する。
重点目標	1 主体的に学習できる生徒の育成と進路実績の一層の向上を図る。 2 活力と特色ある教育活動を推進する。 3 地域に開かれた信頼される学校づくりを推進する。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					学校関係者評価		
年度目標					年度評価（2月1日現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	平成25年度から進学重視型単位制高校に移行し今年度完成年度を迎える。生徒の進路希望実現のため、学習意欲の向上と大学受験に向けた早期からの取組みを推進している。 現役進学率：(H25)90.6%→(H26)93.9% 国立大学：(H25)8名→(H26)22名 早慶上理：(H25)1名→(H26)14名 GMARCH：(H25)56名→(H26)81名 が合格し、大幅に進路実績を伸ばした。しかし、生徒アンケートによれば「教え方が工夫されていて授業が分かりやすい」と答えた生徒の割合は(H25)49.2%→(H26)51.7%と増加したが、より一層の授業改善が必要である。	授業改善の推進による確かな学力の育成 進路希望実現に向けた計画的な取組	・より良い教育課程の編成に向けた研究と検討 ・生徒アンケートを活用したニーズの把握と改善策の策定 ・「教えて考えさせる授業」研究事業の推進	・少人数授業の展開に必要な学習環境を計画的に整備する。 ・「授業がわかりやすい」と感じる生徒の比率が2/3を超える。 ・「教えて考えさせる授業」への取組を全職員で共有する。	授業改善研究協議会の実施と学習環境整備を進めた。 ・新たに2つの選択教室を設置し、学習環境を整備した。 ・アンケート「授業が分かりやすい」満足度は55.5%(昨年比+3.8%)。 ・東大・市川教授、市教委との連携のもと、研究協議会を開催し、県内外から約50名が参加。本校職員がコーディネーターを務めた。	A	・教育課程改善を検討している。より良い進学重視型単位制教育課程に改訂していく。 ・教育課程検討を通して、教育方法の改善・特別活動との連携・キャリア教育等を推進する。 ・IT設備の導入や校舍老朽化対策について、市教委との連携を継続する。
2	「3つの感動体験」を始めとする様々な教育活動は、生徒が貴重な体験をする機会となっている。 生徒アンケート集計結果から「国際交流、社会探検工房などの体験活動が充実している」と回答した生徒が86.1%、「文化祭・体育祭・球技大会などの学校行事が充実している」と回答した生徒は85.3%、「部活動が盛んである」と回答した生徒は93.1%であった。 今後も本校の教育活動の柱となるよう、継続的な推進が必要である。	体験活動の充実 学校行事及び課外活動の充実	・社会探検工房、海の生物学、海外研修旅行、海外短期派遣(ニュージーランド*)等の事業の充実 ・学校行事の円滑な運営 ・部活動への積極的参加の働きかけ及び指導体制、活動環境の充実	・各事業の目的が達成され、その成果を生徒・教職員が活用する。 ・生徒会活動が活性化し、学校行事の充実を感じる生徒の割合が増加する。 ・部活動加入の比率が増加する。	事業拡大・運営改善を進めた。 ・国際交流事業では、情報共有・連携を深めるため、日程・説明会等の企画について改善した。 ・海外研修旅行の成果を校内外に発表した。 ・来年度の海外派遣生徒を倍増する。	B	・国際交流事業は、より綿密な連絡体制が不可欠である。左欄改善のほか、研修旅行では、事前学習を改善し目的意識をより具体化・明確化できた。業務の継続性を確保し発展させる組織づくりが必要である。
3	辻小虹色チャレンジスクール・夏休みおもしろサマースクール・ジュニアインタープリター・星空観察会・サッカー教室・書道教室・卓球教室等、近隣の小中学校や自治会との連携を積極的に行っている。本校教育活動への理解をより深めていただくため、地域に開かれた信頼される学校づくりを、更に推進していくことが求められる。	開かれた学校づくりの推進 安全・安心な学校環境の確保	・近隣小中学校、辻地区、さいたま市及び南区との連携推進 ・広報活動の活性化 ・登下校時の交通マネーアップ指導の推進 ・規範意識を向上させる生徒指導の推進	・各連携事業等を活性化させるとともにその成果を全職員で共有し、連携意識が高まる。 ・HPを積極的に活用し、きめ細やかな情報発信を行う。 ・一斉配信メールを活用し、保護者へ連絡を密にする。 ・登下校指導を計画的に実施し、生徒の交通安全並びに交通マネーへの意識が高まる。 ・教職員の共通認識のもとに、指導体制を作り、生徒の規範意識が向上する。	生徒、職員、保護者の人的地域連携と情報発信を推進した。 ・「社会探検工房」「ジュニアインタープリター」で報告書を発行した。児童生徒の感想・記録等から成長がうかがえる冊子となった。 ・HP更新は昨年度比3倍超。生徒の活躍が見える発信に努めた。メール配信も適宜実施できた。	B	・年間35回超の地域連携事業について、意義の周知・参加指導を組織的に行い、生徒の地域参加型学習への興味・自主性を引き出した。 ・今後とも、メール配信システム登録率の向上とともに、受信制限等の各種設定等の周知を進めていく。
					目標共有し、日常的な指導を組織的に実施した。 ・日常的な立哨指導、目標共有のもとでの遅刻防止指導を組織的に実施した。 ・生徒会・委員会の自主的活動を推進するとともに、スマホ安全など講演会(3回)を実施した。	B	・安心安全な環境整備について、警察との連携、警備機器・AED等の整備を進めた。さらに、生徒の危機意識の啓発を進め、不審者対策等について地域の目のご協力を得ていく必要がある。
					実施日 平成28年2月3日		
					学校関係者からの意見・要望・評価等		
					・授業見学を通して①「学習の楽しさ」+「進学指導の重要性」②個々のニーズに応じた少人数授業などを活用した丁寧な学習指導③家庭学習など自主的な学習活動の必要性などの特徴が理解できた。 ・生徒の明るい雰囲気が良い。部活動・学習ともに成果を上げている生徒も多く、両立させていることが素晴らしい。 ・受験支援ツールの導入により、進学への意識啓発や勉強に取組む契機となっている。成果の周知・IT環境整備を進め、さらに活用してほしい。 ・推薦入試受験者数が減り、一般受験で第一志望校突破を目指す生徒が増えていることから、南高生の前向きな姿勢がうかがえる。 ・研修旅行での貴重な経験は、様々な学習への動機づけになったのではないかと。その後の自主的な学習姿勢が受験体制にも良い影響を与えているとみられる。 ・ニュージーランド姉妹校との生徒の相互交流事業は、学校全体の国際理解教育の土壌となっている。 ・地域連携事業に多くの生徒が参加していることからもうかがえるが、特別活動・学校行事へのモチベーションの高さを感じる。より多くの生徒が体験的に学ぶ機会を活用し、地域とともに育ってほしい。 ・多くの委員会で独自の取組みを始めたように、生徒の活動を広げてほしい。 ・南高生には、常々地域事業にも協力いただいている。選挙権が18歳からになり、市・区としても学校と連携した主権者教育事業を考えている。 ・参加生徒延べ520名以上、平均週1回の割合で実施した地域連携事業の実績から、生徒・地域・保護者が一体となった学校全体の力を感じる。 ・遅刻防止に成果がみられる。余裕ある登下校が交通事故防止にもつながると感じる。また、南高生全員が登下校時に小中学生に見本を示すことで、地域の交通安全に貢献することを期待している。 ・防犯カメラ・AED設置などの安心安全な環境整備について、PTAとしても学校と連携し取り組んでいく。		